

## THE ROTARY CLUB OF KARIYA



Weekly



創立 1954年 3月 8日  
承認 1954年 3月 30日

例会日時 毎週月曜日  
12:30 ~ 13:30  
例会場 刈谷市新栄町 3の26  
刈谷商工会議所内  
事務所 TEL (0566)22-2111  
FAX (0566)25-2111  
メール kariyar@katch.ne.jp  
ホームページ http://www.kariya-rotary.com  
会長 嶋 津 孝 久  
幹事 野 村 紀 代 彦  
会報委員長 横 山 宜 幸

2012 ~ 2013年度 国際ロータリー 田中作次 会長テーマ

Peace Through Service 奉仕を通じて 平和を

この会報は、地球環境保全に考慮し再生紙を使用しています。

## 第2805回例会プログラム

[当年度=39回目；当月=1週目]

2013年（平成25年）6月4日(火)

## 移動例会「ヘイケホテルを鑑賞しよう」

於：角文株式会社 5階ホール

1. 例会……………〈司会：プログラム委員会〉
- 19:00 1. 点 鐘……………〈会 長〉
2. 開会宣言
3. 国歌斉唱
4. ロータリーソング斉唱……………奉仕の理想
5. 講師・ゲスト並びにビジター紹介
6. 食 事
- 19:10 7. 会長挨拶並びに会長報告
8. 小堤西池のカキツバタを守る会へ支援金贈呈  
……………カキツバタを守る会  
会長 野々山利維 様  
みやさこ かずまさ
9. 退会会員挨拶……………宮廻 和正 会員
10. 幹事報告
11. 出席報告
12. 委員会報告
13. ニコニコボックス報告
14. 次週並びに次々週のプログラムの予告  
(6/10) ……  
クラブ協議会  
次年度委員会別事業計画の検討  
(6/17) ……  
クラブ協議会  
現理事挨拶
2. クラブフォーラム……………〈環境保全委員会〉
- 19:20 卓話 「ホテルの育成について」
- 講師 日本自然保護協会  
自然観察指導員 神谷 幸彦 様  
かみや ゆきひこ  
(紹介者 鈴木文三郎 会員)

15. 謝 辞

16. 点 鐘……………〈会 長〉

20:00 17. 閉会宣言

※例会終了後、角文ビオトープ“逢妻の郷”にてヘイケ  
ホテル鑑賞後、自由解散

## ゲ ス ト

カキツバタを守る会 会長 野々山利維 様  
角文建設株式会社 長村 由佳 様  
としまさ おむら ゆか

## 出 席

会員総数 96名 出席免除 28名  
出席義務者+免除者の内例会出席者 84名  
欠 席 20名 出席率 76.19%  
前々回 (5/20) の修正出席率 100%

## 小堤西池のカキツバタを守る会へ支援金贈呈



## 蛍の話

嶋津 孝久



本日は鈴木文三郎会員のご厚意による「蛍鑑賞の例会」ですので、蛍にちなんだ話をさせていただきます。

まず、「蛍二十日に蟬三日」という言葉があります。これは、蛍の成虫は口器が退化しているの、かろうじて水分を摂取するぐらいの機能しか有していません。このため、ほぼ1～2週間のうちに、幼虫時代に蓄えた栄養素のみで、繁殖活動を行います。このように、蛍・蟬は成虫時期が非常に短いので、盛りの短いたとえに使われています。

また、電気の発明以前には、明りと言えれば火しかありませんでした。何かを燃やすことで、明るさを得ていたのです。その為、蛍の光も「身を焼く」・「身を焦がす」と表現されていました。

古い歌謡曲に「恋に焦がれる蟬よりも、鳴かぬ蛍が身をこがす」と言う歌詞があります。

遡って、源氏物語にも二十五帖・蛍の巻に、

こゑはせで 身のみこがす 蛍こそ

いふよりまさる 思いなるらめ

また、後拾遺集の216番に

音もせで 思いに燃ゆる 蛍こそ

鳴く虫よりも あわれなりけり

と、同じ趣旨の和歌があります。

## 退会会員あいさつ



宮廻 和正 会員

## 「ホタルの育成について」

自然観察指導員 神谷 幸彦 様



ホタルの育成についてお話しする前に、本日、鑑賞して頂く「ビオトープ逢妻の郷」を紹介させていただきます。

ビオトープ逢妻の郷は造られて10年になります。平成15年角文創業140周年記念事業の一環としてつくられました。そのビオトープには、

絶滅危惧種で、隣の豊田市や西尾市では天然記念物にも指定されている「カワバタモロコ」や絶滅の危険性がある種としてレッドリストに掲載されている「メダカ」などが生息しています。

まずは「カワバタモロコ」「メダカ」ならびに今回お話させて頂く「ホタル」がどうして減ったのか皆さんと考えてみたいと思います。

### ①農業の変化

コンクリート製やパイプラインなどの水路整備で生息場所の制限。耕作方法の変化、水路での用水の時期制限による湿田から乾田への変化。高齢化による水田の耕作放棄や地目の変更、田の減少。

### ②水路への生活排水、産業排水の流入による水質汚染

### ③自然保護への意識の欠如

ゴミの不法投棄、水辺環境の開発（河川・水辺の公園整備）。

### ④外来種、移入種の放流

カダヤシ・アメリカザリガニによるメダカやヘイケホタルの減少。

このような原因により減ってしまった、メダカやホタルを何とかして増やそうと、私たちは刈谷市内における小学校・中学校のビオトープを中心に「ホタル放流会」を毎年継続して行っています。

続いて、ホタルの誕生から、初夏の夜を飛びかうまでを紹介したいと思います。

7月上旬に水辺の草の根本や水苔に卵を産み付け約20日程で孵化します。孵化した幼虫は体長約1.8ミリになると水中に入ります。そこでヒメモノアラガイなどの巻き貝を食べながら4回の脱皮を繰り返し、10月下旬ごろには終齢に達し、そのころになると幼虫も発光します。翌年の5月下旬には体長約9ミリに成長し上陸し羽化を待ちます。そして、6月中旬に成虫となり素晴らしい光を放ちます。

また、特別なホタルの幼虫（種の存続）があることもお伝えしたいと思います。それは、ホタルの幼虫の成長は同じ環境に生息していてもかなりのばらつきが生じます。こういった成長のばらつきは、台風・大雨などの色々な場面において種の存続のために与えられた使命なのです。ホタルの世界でも、幼虫の成長の速さを変えることによって、生息環境の季節的変化等に伴い様々な事象に対しての防衛をしながら、種の存続を行っています。